喜びと悲しみを分かちあうこと

暦も最後の1枚となり、学期の中で一番保育日数が多い2学期も15回の登園を残すのみとなりました。2学期を少し振り返ってみたいと思います。

暑かった2学期のはじめ。運動会への取組が始まりました。それぞれの目標に向かって 頑張った個人演技。ダンスや走りっこ、リレー、親子で行った競技やフォークダンス。 どれもが楽しかったり、嬉しかったり、そして、悔しさも感じた子供たちでした。

雨の中での親子バス遠足。目的地を遊園地から昆虫の森に変更して実施しましたが、 目的地が変更になったことで、遊園地では味わうことのできない驚きや、感動、不思議 だなと思う気持ち等を味わうことができたのではないかと思います。

そして、現在。生活発表会に向けての取組。今年も全学年による発表会となりますが、自分の出番を待ちながら友達と一緒に劇遊びを楽しんだり、音色の異なる楽器を持ってみんなで一つの曲を演奏したり、気持ちを込めて歌を歌うなど。それぞれが、真剣に、そして楽しみながら行っているところです。

大きな行事に向けての取組の中だけでなく、普段の子供たちの遊びの様子も変化してきています。友達と一緒に考えたり工夫して遊ぶ姿が見られます。自分の思い通りにならないことがあってもへそを曲げたり腹を立ててその場からいなくなってしまうという姿はあまり見かけなくなりました。

どれもこれも、友達がいるからこそできる体験であり、自分を大切にしてくれる愛情深い大人が周りにいることが子供たちを安心させ、心身ともにより大きく育っていく本となっていると思うのです。

喜びと悲しみを分かちあうという感情は、人間としてもっとも高尚な一面です。家族や友だち、周りの人と一緒になって喜んだり悲しんだりすることは人間的であり重要なことです。

人間は、また誰もが妬みや嫉み、そして攻撃などの感情を抱くものですが、このような、複雑でマイナスとも呼べるような感情は、大人になるまでの間に状況に応じてゆっくり学んでいけばいいと思います。まずは、子供には喜びや悲しみといった健全な感情から、しっかりと育んでやりたいものです。

そのためには、周りの大人が、親しさや感情のこもった会話や交流の場面をできるだけ 豊富に子供たちに見せながら子育てや教育をすることが大切だと思うのです。